

1. 平成18年度一般会計決算のポイント

《歳入・歳出》歳入・歳出ともに 3年ぶりのプラス決算

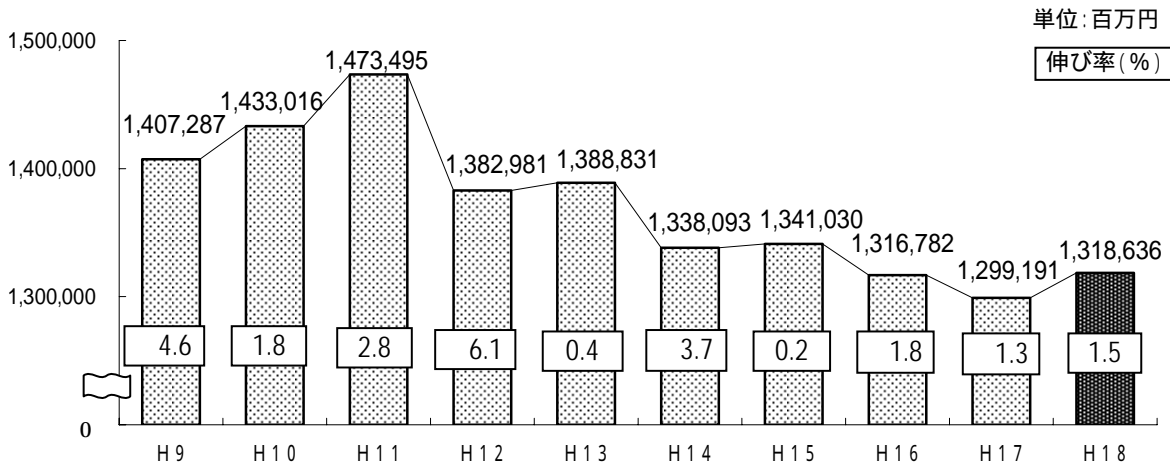
詳しくは4～7ページをご覧ください。

歳入・歳出決算ともに、15年度以降2年連続でマイナスとなっていました。18年度決算は、3年ぶりに対前年プラスに転じました。

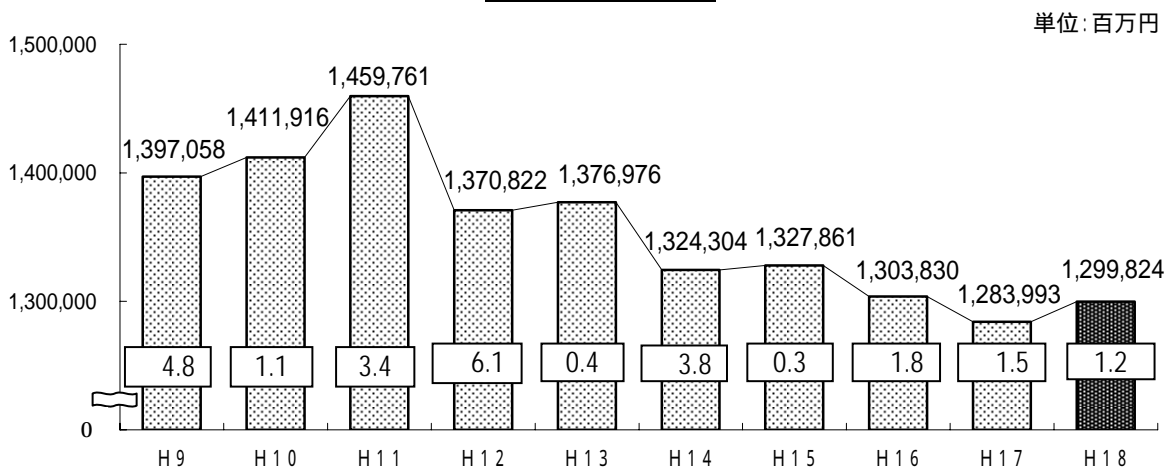
歳入は、地方交付税や地方特例交付金などの減収の一方で、市税収入が2年連続の増収となったことなどにより、前年度に比べ194億4,500万円(1.5%増)の1兆3,186億3,600万円となりました。

歳出は、中期計画(1)の重点事業をはじめ様々な市民ニーズに対応した結果、前年度に比べ158億3,100万円(1.2%増)の、1兆2,998億2,400万円となりました。

歳入決算額の推移



歳出決算額の推移



1 中期計画(横浜リバイバルプラン): 横浜市基本構想「(長期ビジョン)」を着実に具体化していくための5か年の実施計画であり、計画期間は18年度から22年度。(18年12月公表)

《実質収支》実質収支は、64億7,500万円となりました。

18年度の一般会計における実質収支は、効率的・効果的な予算執行に取り組んだことなどにより、前年度に比べ約16億9,500万円増の64億7,500万円となりました。

この金額の1/2は財政調整基金に繰り入れ、残りの1/2は前年度繰越金として、19年度の歳入となります。

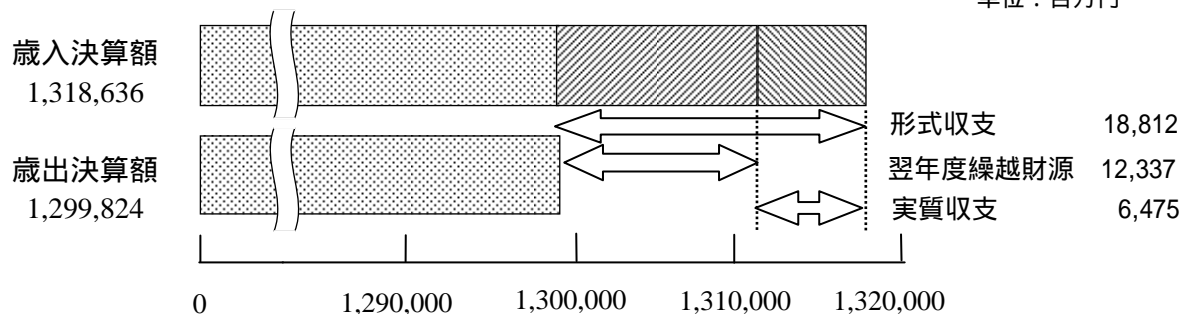
一般会計決算の状況

(単位：百万円)

		18年度	17年度	増減 -	増減比
歳入決算額	A	1,318,636	1,299,191	19,445	1.5%
歳出決算額	B	1,299,824	1,283,993	15,831	1.2%
形式収支	C = A - B	18,812	15,198	3,614	
繰越財源	D	12,337	10,418	1,919	
実質収支	E = C - D	6,475	4,780	1,695	

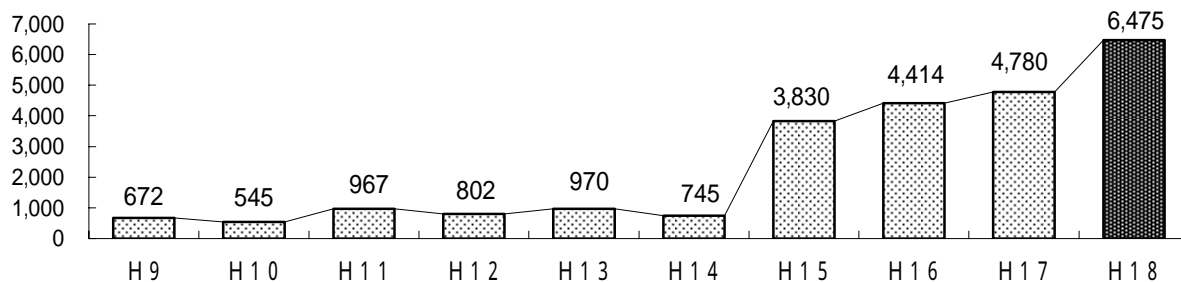
一般会計決算の状況

単位：百万円



実質収支の推移

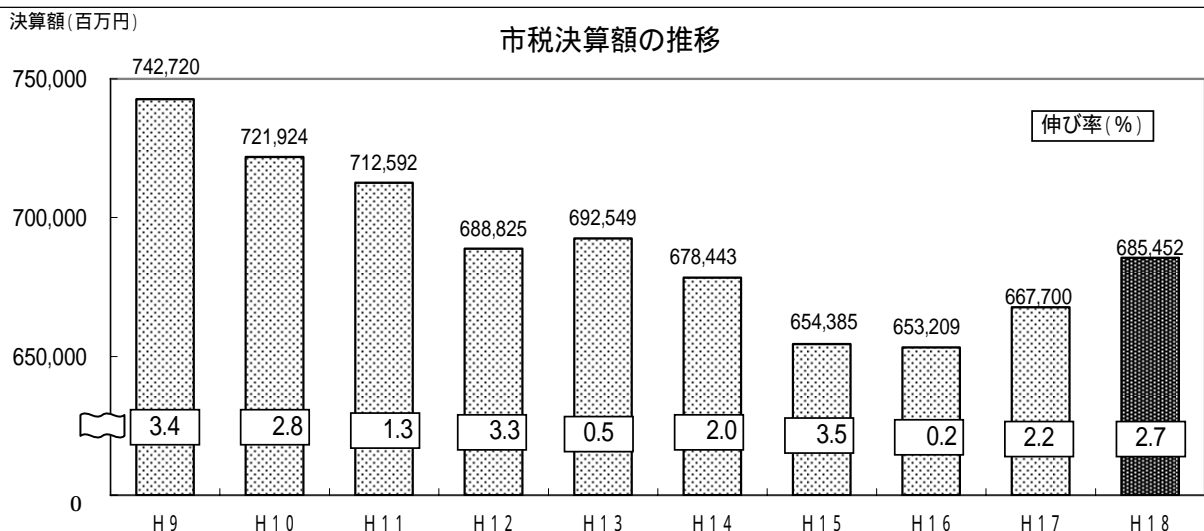
単位：百万円



《市税》昨年度に引き続き、2年連続の増収

詳しくは4・22ページをご覧ください。

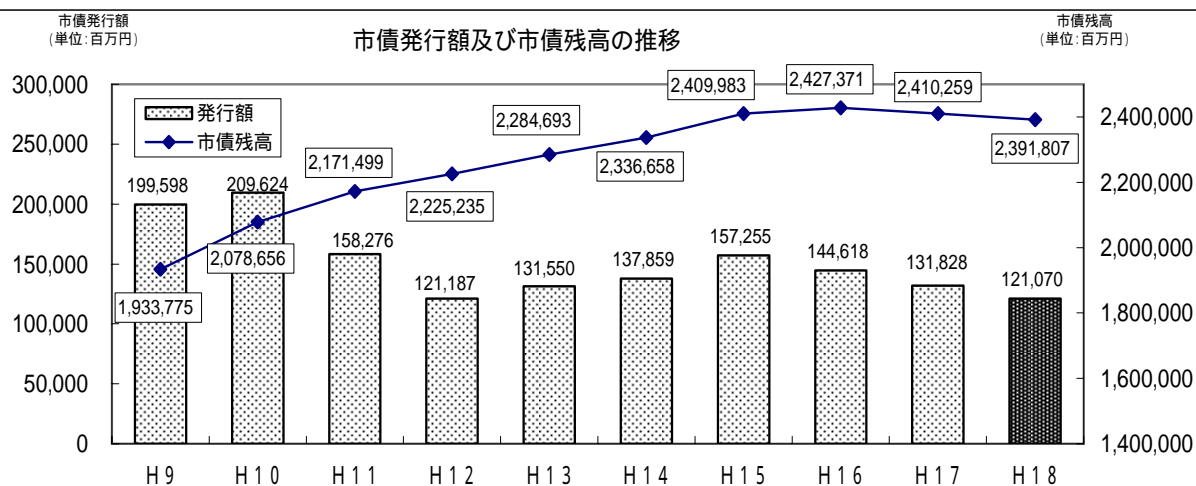
市税は、固定資産税や都市計画税が減となったものの、個人市民税や法人市民税の増などにより、前年度決算比 2.7%増の 6,855 億円となりました。これは昨年度に引き続き 2 年連続の増収となります。



《市債》発行額は前年度に比べ 8.2%減

一般会計の市債発行額は、中期財政ビジョン(2)に基づく発行抑制に努めた結果、前年度に比べ 107 億 5,800 万円(8.2%)減の、1,210 億 7,000 万円となりました。

市債残高は、16 年度をピークに減少に転じ、18 年度末で、2 兆 3,918 億 700 万円(前年度決算比 0.8%、184 億 5,200 万円)となりました。



- 2 **中期財政ビジョン**：15 年度から 18 年度までの横浜市の財政運営の指針として策定。先の「横浜リバイバルプラン」の財政分野を構成する。(15 年 10 月公表)